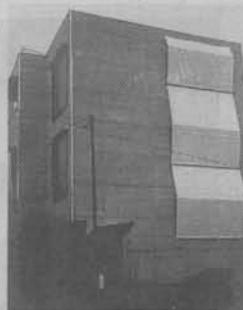
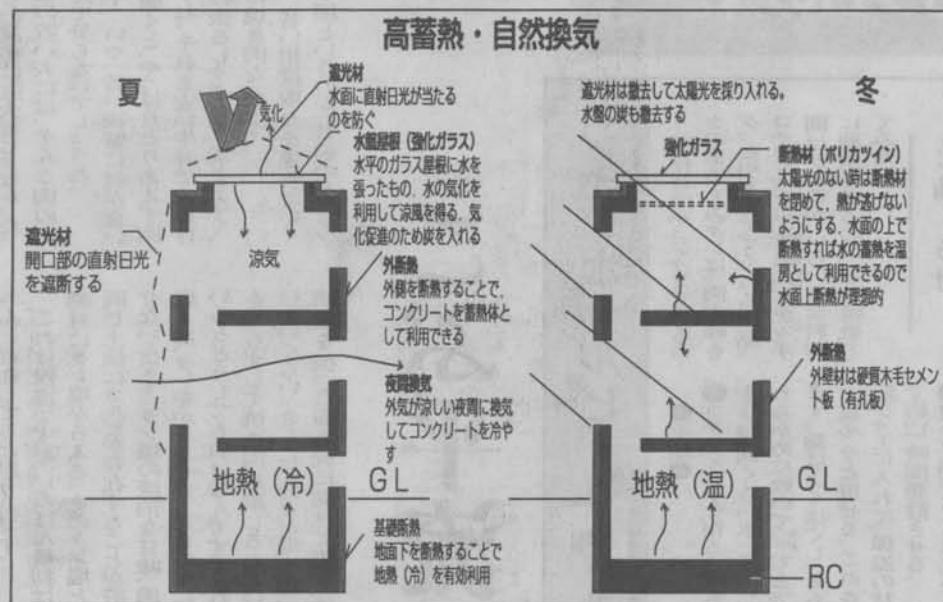


この紙面の情報は、産経Web (<http://www.sankei.co.jp/>) でもご覧になれます。

見学者の第一声は、「いつ仕上がるのですか?」確かに見た目には、仕上げはこれから——のようになります。

モチーフは「高蓄熱・自然換気住宅」

高蓄熱・自然換気の実験住宅

設計者は、ユニークな住

み作りに挑戦を続ける海

建築家の海野健三さん

(48歳)。

内部はコンクリートの打ち放しだが、表面仕上げは平滑ではなく、曲面の連続構成で、しかも型枠代わりの工事用ネットの編み目模様がそのまま浮きだしている。

硬質木毛セメント板(有孔板)を外断熱材として仕上げた外観。開口部には工事用ネットを遮光用に張ってある

海野さんによると

「この住まいは、コ

ンクリートの新工法

を開発したもので、

外断熱方式を取りな

がら、ローコスト

(坪五十五万円程度)

が可能。しかも冷

く硬い印象のコンク

リートの持つ素材感

を、まったく違った

表情に仕上げること

この住まいは、バッジブ工法で、建築材料も絞り込み、健康的でローコストの住まいを実現しようとする、一種の「実験住宅」だ

が、設計した海野さんは意欲満々。

「震災に遭った神戸などで、手作りの住まいとして認知されれば……。コストも安く、自然の力を利用した住まいとして、理解してもらいたい。最近話題の高密度・高断熱は、高気密が故に強制換気も必要。もうと

自然の力を利用したものがいい」と語っている。

問い合わせは海建築工房(東京都江東区扇橋、☎03-3648-8486)。ができる」という。「URC工法」は、鉄筋コンクリート(RC)の海野版(U)の意味。室内コンクリートの表情もさることながら、さらに驚かされるのは二階大井部のガラス屋根。水平に張った強化ガラスの水盤に深さ四寸ほど、水が張られている。

夢のゼロエネルギー、めざす 建築家・海野健三さんが設計



「仕上げは、まだ?」

東急東横線元住吉駅から徒歩五分ほどの、敷地約一五坪、延べ床面積約三八坪の鉄筋コンクリート造り二階建て地下室付きの住宅がそれ。

家の形は単純な立方体だ

天井部の水盤 下の断熱材を開けたところ

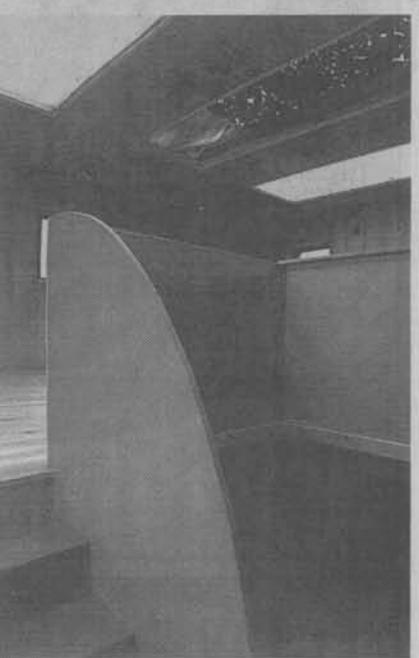


冬は、屋根の遮光材と水盤内の炭も撤去して太陽光を取り入れ、水の蓄熱作用を利用した「温房」として水盤を活用する。太陽の出ないときは、熱が逃げないように水盤下に設置した断熱材(ポリカーボネート)を開じて、コンクリートを冷やす。

ガラス屋根の上には水面に直射日光が当たるのを防ぐために、遮光材として工事用ネットで覆う。夜には窓を開け放ち、涼しい外気を導入してコンクリートを冷やす。

夏は水の気化を利用する涼風を得るのが目的。気化を促進するために炭を入れるために、ガラス屋根。水平に張った強化ガラスの水盤に深さ四寸ほど、水が張られている。

2階天井部を階段踊り場から見上げたところ、3カ所に水盤が設けられている。黒く見える部分に炭を入れてある。



3-3648-8486)。